

# 生活者、事業者支援の補正予算可決

市議会臨時会が1月31日開かれ、一般会計補正予算などを審議、全会一致で可決しました。

一般会計の補正は、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用して、

①住民税均等割のみ課税世帯に対し、一世帯当たり1万5千円を支給するとともに、同世帯において18歳以下の児童を扶養している場合にあっては、児童1人当たり1万円を合わせて支給する。

また、住民税非課税世帯に対する支援として、灯油代を支援する経費も増額する(1億5807万円)。

介護保険施設を運営する法人を対象に、食事の提供に要する費用の一部を支援するための経費を増額する(7383万円)。

②市内中小企業者や農林水産事業者などを対象に、エネルギー価格高騰対策として省エネ設備を導入する際の費用の一部を支援するとともに、収益力向上を図り

賃上げ環境の整備に取り組み事業者を支援するための経費を増額するほか、物価高騰の影響を受けた生活者の消費を下支えし、あわせて、商工団体等による消費喚起や売上増加への取組を後押しするため、商工団体等が実施するプレミアム付

商品券発行事業に要する経費を増額する(1億100万円)

③乳用牛又は肉用牛を飼養している市内の畜産農家を対象に、粗飼料に係る費用のうち、価格上昇分を支援するための経費を増額する(1981万円)とともに

に、土地改良区が管理する農業水利施設の電気料金のうち、価格上昇分の一部を補助するための経費を増額する(250万円)ものです。

このほか、ふるさと納税等による寄附金が当初の予想を越えて6億3120万円ほどになる見込みであることから、ふるさと上越応援基金等積立金及び返礼品代等を増額する(1億2464万円)ことも盛り込まれました。

国の令和6年度補正予算を活用した公共事業の前倒しも予算化されました。具体的には、国の防災・減災及び国土強靱化推進措置財源を使って、「令和7年度に計画していた市道や公園施設、河川等における工事の一部などを前倒して実施する経費を増額するほか、下水道事業会計補正予算において生じた収支不足分について、繰出金を増額する」というものです。

総括質疑では、日本共産党議員団の上野団長が3回にわたる質疑のなかで、「商工団体等が実施するプレミアム付商品券発行事業は(商工団体の合併があるなかで)柔軟に対応する」ことなどの答弁を引き出しました。



**【幸来花】**(再掲) マダガスカル原産の多年草で「こうらいか」と読みます。「幸せが来る花」として親しまれています。冬の寒い時期、橙色の花を咲かせると温かく感じます。10年ほど前に直江津の三八市で初めて出会い、以来毎年、この朝市で出合っています。花言葉は、「大志」。写真は2月4日、撮影しました。

## 県民投票条例制定めざし世論づくりを

柏崎刈羽原発の再稼働の是非を問う県民投票条例制定を目指す直接請求署名運動を進めてきた「県民投票で決める会・上越」の報告集会在1日、市民プラザにて行われました。

片岡豊代表が経過報告などを述べたのち、署名運動をしてきた秋山芳美さん、前山忠さん、大坪一枝さんが署名運動で感じたこと、今後の運動の在り方などで発言しました。

このうち秋山さんは、「県民一人ひとりが決めるのがいいね、と言われた。署名してくれた一人ひとりの思いを実現させたい」とのべました。一人で700人からの署名を集めた前山さんは、「エネルギーが温暖化の宣伝を強めてきている。温暖化のなかには原発は必要だ」という人が4

人いたが、どんな人も原発に不安があることを感じた。今後の運動で最も重要なのは世論だ。これからが正念場、最後まで頑張ろう」と訴えていました。

イラストは秋山さんが発言しているところです。



はしづめ法一の  
活動レポート

No.2191 2025.2.9

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第八三八回

### もらい風呂

私のふるさと、吉川区蛸場（尾神の小屋名の一つ）出身で現在は大湊区在住のハル子さんを久しぶりに訪ねました。

ハル子さんは私の母と仲が良く、母が健在だったころは、吉川区下中条のチコさんとともに、大島区板山の「伊作」へ泊りに出かけたがり、近くの温泉に行ったりしていました。母がまともに動けなくなっても、一年に何回かはわが家へ来て、母を励ましてくださいました。

また、大湊区四ツ屋浜に住んでいた弟が生きていた時は、弟が私の作成したピアノをひと月に一回くらい、ハル子さんのところに届けてくれていました。たまにハル子さんと会うと、「おまんた、イサムちゃんが届けてくんなるすけ、おかげさんで読ませてもらっているでね」と声をかけてもらっていました。

そういう経過を知っている以上、「ハル子さんのところへ、たまには行かなきゃ」と思い続けてきました。でも、なかなかその時間が取れませんでした。

訪ねた日は月初めでした。玄関でチャイムを鳴らしましたが返事はありません。玄関ドアを開けて、大きな声で「ごめんください」と呼びかけましたが、それも返事はありませんでした。あきらめて車に戻ったところ、いいタイミングで娘さん夫婦が帰ってこられました。

「お茶、どうですか」と勧められ、居間にいらせてもらうと、ハル子さんはテレビでも観ておられたのでしよう、やはり、在宅でした。耳がよく聞こえなかったのです。

この日、私がハル子さんを訪ねたのには特別の目的がありました。新曲『かちやの歌』をユーチューブで観てもらいたかったのです。歌を聴いてほしいし、イラストも観てほしい、そう思っていました。というのも、歌やイラストには蛸場の風景や三輪自転車に乗った母の姿などが出てくるから

です。『かちやの歌』を聴いて母や蛸場のことを思い出し、懐かしい思い出を語ってもらえたらいいなと思っていました。

私のスマホを使い、『かちやの歌』を再生し始めたら、ハル子さんは涙を浮かべながら聴いてくださいました。おそらく自分の母親のこと、子ども時代の切なかつたことなどが次々と浮かんだのだと思います。

ハル子さんの家族が昔、大変な苦勞をしてきたことは私も聞いていましたが、記憶は薄くなっていました。ハル子さんは『かちやの歌』を聴いた後、私の記憶をしっかりとしたものにしてくださいました。

ハル子さんが十代の半ば頃、母親は四三歳の若さで一月の寒い時期に亡くなりました。心筋梗塞だったようです。そして父親も同じ月の下旬に五三歳で亡くなっていました。二人は十歳違いの夫婦でした。父親は風邪をこじらせ、肺炎が命取りになったそうです。このとき、家にいたのはハル子さんと八つ年下の妹さんの二人だけでした。短期間のうちに両親が亡くなって、姉妹二人しか家にはいない。どんなに切なかつたことでしょうか。

昔、ハル子さんの家は生活がたいへん厳しく、ハル子さんは母親の実家で九歳まで養ってもらったそうです。お兄さんもすぐ下の妹さんも冬は出稼ぎに行っていました。母親が亡くなった時の葬儀には、お兄さんは出稼ぎ先から戻れなかつたといえます。その際、この一家に寄り添った一人が私の祖父・音治郎だったとのことでした。

両親が亡くなり、ハル子さんたちキョウダイは必死に頑張ります。その姿を見ていた蛸場の人たちは、「こんだ、おらちに風呂入りにきない」と誘ってくれたといえます。いわゆる「もらい風呂」です。それがどんなに温かいお風呂だったか。ハル子さんは「ありがたかつたし、うれしかつた」と何度も感謝の言葉をのべていました。

## 県ジュニア美術展覧会へ

2月1日、市民プラザで開催中の県ジュニア美術展覧会を観てきました。

「稲と鎌の間」を描いたのは白根小学校5年生の今野信希さんです。面白いところに注目し、イネを刈り取ったときの喜びを丁寧に描いていました。

安塚小学校1年生の松苗和歩さんの「しあわせのぶどう」（右下）は山本ブドウ園のブドウかな。こちらも収穫した時の喜びがよく表現されていましたね。

万代長嶺小学校2年生の玉木悠太郎さんの「ちちしぼりをしたよ」は牛の乳房を思いっきり大きく描いてあり、初めての乳しぼりの感動が伝わってきました。



## 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月29日(水)	2月5日(水)
上越消防署	0.053	0.050
上越南消防署	0.053	0.053
新井消防署	0.053	0.057
頸北消防署	0.053	0.050
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.050	0.050
名立分遣所	0.047	0.067
高士分遣所	0.057	0.057

9日の午後に予定していた新春のつどい（吉川多目的集会場）は天候不順のため中止しました。